

II 各教科の正答率、問題の内容及び所見・解説

2 社会

(1) 正答率

問題	配点	正答		一部正答		誤答		無答		通過率 率= $\frac{\text{得点計}}{\text{人数} \times \text{配点}}$ (%)	
		数	率 (%)	数	率 (%)	数	率 (%)	数	率 (%)		
1	問1	3	401	84.2	41	8.6	31	6.5	3	0.6	88.4
	問2	2	354	74.4	0	0.0	122	25.6	0	0.0	74.4
	問3	2	268	56.3	0	0.0	208	43.7	0	0.0	56.3
	問4	5	144	30.3	278	58.4	39	8.2	15	3.2	62.4
	問5	3	101	21.2	48	10.1	327	68.7	0	0.0	25.9
2	問1	2	464	97.5	0	0.0	12	2.5	0	0.0	97.5
	問2	5	247	51.9	165	34.7	44	9.2	20	4.2	71.4
	問3	3	363	76.3	6	1.3	84	17.6	23	4.8	77.1
	問4	2	307	64.5	0	0.0	168	35.3	1	0.2	64.5
	問5	3	381	80.0	15	3.2	79	16.6	1	0.2	81.9
3	問1	2	380	79.8	0	0.0	96	20.2	0	0.0	79.8
	問2	4	121	25.4	233	48.9	74	15.5	48	10.1	50.3
	問3	2	302	63.4	0	0.0	172	36.1	2	0.4	63.4
	問4	3	146	30.7	46	9.7	283	59.5	1	0.2	35.2
	問5(1)	3	123	25.8	95	20.0	237	49.8	21	4.4	36.6
	問5(2)	2	199	41.8	0	0.0	277	58.2	0	0.0	41.8
4	問1	3	186	39.1	3	0.6	286	60.1	1	0.2	39.5
	問2	2	306	64.3	0	0.0	170	35.7	0	0.0	64.3
	問3	2	246	51.7	0	0.0	230	48.3	0	0.0	51.7
	問4	5	142	29.8	190	39.9	58	12.2	86	18.1	51.1
	問5	3	168	35.3	5	1.1	223	46.8	80	16.8	36.0
5	問1 I	2	285	59.9	0	0.0	143	30.0	48	10.1	59.9
	問1 II	2	311	65.3	2	0.4	100	21.0	63	13.2	65.5
	問2	3	185	38.9	36	7.6	253	53.2	2	0.4	41.9
	問3	5	284	59.7	106	22.3	38	8.0	48	10.1	72.3
	問4	2	280	58.8	0	0.0	195	41.0	1	0.2	58.8
	問5	5	348	73.1	51	10.7	21	4.4	56	11.8	79.2
	問6	3	244	51.3	0	0.0	174	36.6	58	12.2	51.3
	問7	2	217	45.6	0	0.0	258	54.2	1	0.2	45.6
6	問1	2	345	72.5	40	8.4	80	16.8	11	2.3	76.7
	問2	2	262	55.0	2	0.4	177	37.2	35	7.4	55.3
	問3	2	310	65.1	0	0.0	165	34.7	1	0.2	65.1
	問4	2	304	63.9	0	0.0	146	30.7	26	5.5	62.0
	問5(1)	3	331	69.5	9	1.9	54	11.3	82	17.2	70.5
	問5(2)	4	142	29.8	157	33.0	114	23.9	63	13.2	47.7

(小数点以下第2位を四捨五入しているため、%の合計が100にならない場合がある。)

(2) 問題の内容

- 1 西暦2000年以降にオリンピック・パラリンピック競技大会夏季大会が開催された国と、次回開催予定の日本について調べる学習の場面を想定した、地理的分野の問題である。
- 問1 オーストラリア大陸を除いた、西暦2000年以降にオリンピック・パラリンピック競技大会夏季大会が開催された国のある大陸の名称を2つ書く問題である。
- 問2 地図に示された4つの地点の中から、東京の対せき点を選ぶ問題である。
- 問3 4つのグラフの中から、西岸海洋性気候に属するロンドンの気温と降水量を示すものを選ぶ問題である。
- 問4 日本とオーストラリアとの貿易に関するグラフの読み取り、日本からみたオーストラリアとの貿易の特色を記述する問題である。
- 問5 イギリス、中国、ブラジルにおける、1985年、2010年の人口と年齢別人口割合及び、2035年の人口と年齢別人口割合を示した表を読み取り、読み取れる内容を述べた文として正しいものをすべて

選ぶ問題である。

2 日本農業などについて調べる学習の場面を想定した、地理的分野の問題である。

- 問1 あてはまる農産物が空欄になっている地図と表を読み取り、あてはまる農産物の組み合わせを選ぶ問題である。
- 問2 北海道と全国の経営耕地面積の規模別農家数の割合を示したグラフと、北海道と全国の農業産出額の割合を示したグラフを読み取り、北海道の農業の特色を、全国と比較して記述する問題である。
- 問3 宮崎県におけるきゅうりの栽培方法についてのまとめを読み、まとめの中の空欄にあてはまる栽培方法を書く問題である。
- 問4 北海道、青森県、長野県、静岡県の人口、人口密度、産業別人口割合、農業生産額、漁業生産量、工業出荷額を示した表を読み取り、青森県にあたるものを選ぶ問題である。
- 問5 静岡県の沼津市及び清水町の一部を示した2万5千分の1の地形図の読み取り、読み取れる内容を述べた文として下線部が正しいものをすべて選ぶ問題である。

3 近世までの日本の文学・文芸について調べる学習の場面を想定した、歴史的分野の問題である。

- 問1 防人の説明として正しいものを選ぶ問題である。
- 問2 皇室と藤原氏の関係をあらわした図をみて、藤原氏がどのようにして朝廷の高い地位をほとんど独占したのかを記述する問題である。
- 問3 鎌倉時代の文化について述べた文と、鎌倉時代の代表的な文化財の組み合わせを選ぶ問題である。
- 問4 室町時代の社会や経済の様子を述べた文として正しいものをすべて選ぶ問題である。
- 問5 (1) 寛政の改革を進めた老中で、狂歌で風刺された人物の名前を書き、寛政の改革の内容を述べた文として正しいものを選ぶ問題である。
- (2) 寛政の改革と同時期の世界のできごとを述べた文として、その正誤の組み合わせが正しいものを選ぶ問題である。

4 近現代の年表を基にした、歴史的分野の問題である。

- 問1 日本とイギリスとのかわりについて述べた文を、年代の古い順に並べかえる問題である。
- 問2 日清戦争の始まりから日露戦争の始まりまでの、明治時代の社会や経済の様子について述べた文として正しいものを選ぶ問題である。
- 問3 第一次世界大戦についてのまとめを読み、まとめの中の空欄にあてはまる「ヨーロッパの火薬庫」と呼ばれた半島の名称と半島の地図中の位置の組み合わせを選ぶ問題である。
- 問4 1940年と1950年の自作地と小作地の割合を示したグラフをみて、GHQの指令に従って民主化を進めるために行われた政策の名称を書き、この政策の内容を、「地主」という語を用いて説明する問題である。
- 問5 サンフランシスコ平和条約の締結についてのまとめを読み、まとめの中の空欄にあてはまる日本の首席全権としてサンフランシスコ平和条約に署名した首相の氏名を書く問題である。

5 テーマを設定して調べる学習の場面を想定した、公民的分野の問題である。

- 問1 労働基本権（労働三権）についての表の空欄にあてはまる労働基本権を書く問題である。
- 問2 内閣について述べた文として正しいものをすべて選ぶ問題である。
- 問3 衆議院の優越が認められている理由を、「任期」、「解散」、「国民」という三つの語を用いて記述する問題である。
- 問4 日本銀行について述べた文として正しいものを選ぶ問題である。
- 問5 国の一般会計当初予算（歳出）の内訳の推移を示したグラフ1と、日本の年齢別人口の割合の推移を示したグラフ2を読み取り、グラフ1の内訳の最も特徴的な変化を、グラフ2から読み取ったことと関連づけて記述する問題である。
- 問6 世界の地域主義についてのまとめを読み、まとめの中の空欄にあてはまる地域連合を書く問題である。
- 問7 国際連合の機関である「国連難民高等弁務官事務所」のアルファベットの略称を選ぶ問題である。

6 「明治日本の産業革命遺産」について調べる学習の場面を想定した、地理的分野・歴史的分野・公民的分野についての総合的な問題である。

- 問1 構成資産が分布する8県のうち、資料の地図に示されていない2県の県名を書く問題である。
- 問2 川がつくる地形についてのまとめを読み、まとめの中の空欄にあてはまる地形を書く問題である。
- 問3 伊藤博文について述べた文として正しいものを選ぶ問題である。
- 問4 欧米諸国のアジア進出と日本の対応についてまとめを読み、まとめの中の2つ空欄にあてはまる語の組み合わせを選ぶ問題である。
- 問5 (1) 福岡県と佐賀県の第23回参議院議員選挙と第24回参議院議員選挙について表を読み取り、第24回の選挙における有権者数が、第23回の選挙よりも増加していることと関連し、平成27年6月の公職選挙法の改正で、選挙権がどのような改められたのかを記述する問題である。
- (2) 選挙の課題の一つにある「一票の格差」とはどのようなことか、「有権者数」と「価値」という二つの語を用いて説明する問題である。

(3) 所見・解説

- 1 西暦2000年以降にオリンピック・パラリンピック競技大会夏季大会が開催された国と、次回開催予定の日本について調べる学習の場面を想定し、世界の様々な地域や、世界と比べた日本の地域的特色について理解しているかをみよとした。
- 問1 中国とブラジルが属している大陸は、それぞれ「ユーラシア大陸」と「南アメリカ大陸」となる。
- 問2 地図中の赤道や本初子午線など目安となる緯線や経線を用いて、東京の対せき点を考察すると、正答はdとなる。誤答の多くはcを選択したものであった。
- 問3 西岸海洋性気候の特色は、年間を通して平均した降水があり、気温の年較差も少ないことである。この特色がみられるグラフはBである。誤答の多くはDを選択したものであった。Dは地中海性気候の特色を示すグラフである。温帯については、温暖湿潤気候、地中海性気候の特色と合わせて理解させる必要がある。
- 問4 総額に注目すると輸入総額が輸出総額を大きく上回っていることが分かる。また、日本からオーストラリアへの輸出品目は工業製品であり、日本のオーストラリアからの輸入品目は原料となっている。正答に至らなかったものには、総額、品目の一方しか記述していないものが多かった。
- 問5 資料から読み取れる内容を述べた文として正しいものは、イ、エとなる。誤答はエを選択していないものと、オを選択しているものが多かった。エは、生産年齢人口の増加についての記述であるため、内容の正誤を判断するためには、計算することが必要である。イギリスの生産年齢人口の割合は66.1%から60.0%へと減少することが予測されているが、割合を用いて生産年齢人口を計算すると、約41万人から約43万人へと増加することが予測されるので、エの内容は正しいと判断できる。また、オは、「人口の5人に1人が65歳以上になると予測される。」とあることから、老年人口割合が20%以上になると読みかえることができる。しかし、ブラジルの2035年の老年人口割合は15.6%であるため、オの内容は誤っていると判断できる。日頃から統計資料に親しむとともに、数値については、実数と割合の違いを誤読することなく読み取ることが求められる。
- 2 日本の農業などについて調べる学習の場面を想定し、日本の諸地域や地域的特色、身近な地域の調査について理解しているかをみよとした。
- 問1 北陸や東北地方で稲作がさかんである。また、九州地方から東海にかけての温暖な地方ではみかんの栽培がさかんで、冷涼な東北地方や中央高地ではりんごが広く栽培されている。そのため、地図と表の収穫量上位3位までの道県から、栽培のさかんな農産物を読み取れることができ、正答はカとなる。
- 問2 2つのグラフから、北海道は全国に比べて、経営耕地面積が大きい農家の割合が高いことと、農業産出額に占める家畜の割合が高いことが読み取れる。正答に至らなかったものの多くは、どちらか一方または両方の記述が不足しているものであった。日頃から読み取った内容を自分の言葉で表現し、説明する習慣をつけておきたい。
- 問3 まとめにある「出荷時期を早める工夫」や「ビニールハウスや温室」という表現から、空欄にあてはまる栽培方法は促成栽培となる。
- 問4 アは、人口密度が低いことや農業生産額及び漁業生産量が高いことから北海道であると判断ができる。イは、工業出荷額が高いことから太平洋ベルトに属する静岡県であると判断できる。ウは、漁業生産量が低いことから海に面していない長野県であると判断できる。エは、第1次産業の人口割合が最も高いことや工業出荷額がこの中で最も少ないことから青森県であると判断ができ、正答はエとなる。

問5 **ア**は縮尺が2万5千分の1の地形図であることから $8\text{cm} \times 25,000 = 200,000\text{cm} = 2,000\text{m}$ となる。地形図では上が北となっているため、Cからみて右下にあるDはおよそ南東の方向にあるため**イ**は正しい。Eは近くにある徳倉山の三角点の数字と計曲線が50mごとであることから標高200m、Fは周辺に100mの計曲線があることから、なぞると標高150mとなるため、**ウ**は正しい。**エ**は、Gにみられる地図記号は図書館ではなく博物館・美術館である。**オ**は、Hの範囲内では針葉樹林の地図記号が多くみられる。したがって、正答は**イ**、**ウ**となる。

3 近世までの日本の文学・文芸について調べる学習の場面を想定し、世界の歴史を背景とした近世までの日本の歴史について理解しているかをみようとした。

問1 防人についての説明は**ウ**である。なお、**ア**は渡来人、**イ**は御家人、**エ**は武官についての説明である。

問2 藤原氏は娘を天皇のきさきにし、その子を天皇に立てることにより、朝廷の高い地位をほとんど独占した。正答に至らなかったものには、藤原氏が娘を天皇と結婚させたということは記述してあるものの、その子を天皇に立てたことまで記述されていないものが多かった。

問3 鎌倉時代の文化について述べた文は**a**であり、鎌倉時代の代表的な文化財は資料1の「金剛力士像」であるため、正答は**ア**となる。なお、**b**は江戸時代の元禄文化について述べた文であり、資料2の「風神雷神図屏風」は元禄文化の代表的な文化財である。誤答の多くは**エ**を選択したものであった。これは江戸時代の文化について述べた文と文化財の組み合わせである。各時代の文化の特色と、その時代の代表的な文化財について理解を深める必要がある。

問4 室町時代の社会や経済について述べた文は**ア**と**オ**である。誤答の多くは**ア**か**オ**のどちらかしか選択できていないものだった。なお、**イ**は江戸時代、**ウ**は安土桃山時代、**エ**は江戸時代の社会や経済の様子を述べた文である。

問5 (1) 寛政の改革を進め、狂歌で風刺された人物は「松平定信」であり、寛政の改革の内容について述べた文は**ア**となる。人物の名前についての誤答の多くは「田沼意次」であった。なお、**イ**は享保の改革、**ウ**は天保の改革の内容について述べた文である。

(2) Xは宗教改革について述べた文であり、日本では室町時代にあたる。Yはフランス革命について述べた文であり、日本では江戸時代にあたる。Zはロシア革命について述べた文であり、日本では大正時代にあたる。よって、正答は**ウ**となる。世界の歴史に関して中学校で取り上げる学習事項はかなり精選される。しかし、これらの事項は我が国の歴史の大きな流れを理解させるためには重視すべき内容であり、同時代の世界の歴史についての理解を深めることは、生徒の多角的・多面的な視点の育成に寄与するものである。

4 近現代の日本と世界の歴史について理解しているかをみようとした。

問1 正答は**ウ**→**ア**→**イ**→**エ**となる。選択肢の内容を読み取ることで、年号を暗記していなくても正答を導くことができる。**ウ**のノルマントン号事件についての文は、不平等条約が結ばれていた時期のものである。**ア**の領事裁判権の撤廃は、不平等条約の改正について述べているため、**ウ**より後の時期のものである。**イ**の日英同盟は日露戦争の直前に結ばれている。**エ**のロンドン軍縮会議は、第1次世界大戦後のことである。

問2 官営の八幡製鉄所は日清戦争の賠償金をもとに建設されたことから、正答は**エ**となる。誤答の多くは**イ**を選択したものであった。

問3 「ヨーロッパの火薬庫」とよばれ、第一次世界大戦のきっかけとなったオーストリアの皇太子夫妻が、セルビア人の青年に暗殺された事件がおこったセルビアのある半島は「バルカン半島」である。また、地図中のバルカン半島の位置は**b**であるため、正答は**オ**となる。誤答の多くはバルカン半島の位置を理解していない、**エ**と**カ**であった。歴史の学習においても、地図を活用し、地理的分野との関連を図る必要がある。

問4 政策の名称は「農地改革」であり、農地改革の内容としては、地主が持つ小作地を政府が買い上げて、小作人に安く売り渡したことである。政策の名称の誤答としては「地租改正」がみられた。また、政策の内容の説明で、正答に至らなかったものには、「小作地を政府が買い上げた」ことについて触れていないものがみられた。

問5 日本の首席全権としてサンフランシスコ平和条約に調印した人物は、当時の首相である「吉田茂」となる。誤答の多くは、「原敬」であった。

- 5 公民科分野の学習のまとめとして、興味のある分野からテーマを設定して調べる学習の場面を想定し、日本の政治や経済、国際社会について理解しているかをみようとした。
- 問1 正答はIが団結(権)、IIが団体交渉(権)である。Iの誤答として、「団体(権)」、「労働組合(権)」が多く、IIの誤答は用語を理解できていないことによる、「労働改善(権)」、「団体請求(権)」などがみられた。
- 問2 国の政治について述べた文の中で、内閣について述べたものはウとオである。アは、裁判所について述べた文であり、イとエは、国会について述べた文である。誤答の多くはアとオのどちらかは選択できているが、イかエを選択しているものだった。国の政治のしくみについては、国会、内閣、裁判所の役割と関係についてしっかり理解する必要がある。
- 問3 衆議院の優越が認められている理由としては、衆議院は参議院より任期が短く解散があるため、国民の意思をより反映させやすいからというものである。正答に至らなかったものには、「国民」を使った表現ができていないものがみられた。これは、「国民の意思を反映させやすい」ということが十分に理解できていないことによるものである。
- 問4 日本銀行の役割について述べた文はウである。アは政府の役割、イは一般銀行の役割、エは公正取引委員会の役割について述べた文である。誤答の中で最も多かったのはイであった。
- 問5 グラフ1の最も特徴的な内訳の変化を、グラフ2から読み取れることと関連づけて記述すると、高齢化が進むことにより、社会保障費の割合が増加しているとなる。正答に至らなかったものには、グラフ2から高齢化が進むことが読み取れていないものや、高齢化と社会保障関係費の増加を関連づけられていないものがみられた。
- 問6 正答は「東南アジア諸国連合(ASEAN)(アセアン)」となる。東南アジア諸国を示した地図とまとめの文章を活用することにより、正答を導くことができる。誤答の多くは、「国際連合」や「APEC」であった。アルファベットの略称で表記された語句や組織の名称についての理解を深めたい。
- 問7 国連難民高等弁務官事務所の略称はUNHCRであり、正答はアとなる。なお、イは世界保健機関、ウは世界児童基金、エが国連平和維持活動の略称である。誤答の多くはエを選択していた。国際連合について基礎的な知識を定着させるとともに、世界に視野を広げて、様々な諸問題についての理解を図る必要がある。

- 6 「明治日本の産業革命遺産」について調べ、資料を作成する学習の場面を想定し、地理的分野・歴史的分野・公民的分野の3分野を総合的に理解しているかをみようとした。
- 問1 表1中の8県のうち、地図中に示されていない2県は、「岩手県」と「鹿児島県」である。
- 問2 まとめ文章と資料を読み取ることにより、空欄にあてはまる地形は「三角州」となる。
- 問3 伊藤博文について述べた文はアである。なお、イは大久保利通、ウは中江兆民、エは大隈重信について述べている。
- 問4 アヘン戦争で清がイギリスに敗北したことで、国内では軍事力の強化が課題となった。また、おもに西日本の諸藩では、財政を立て直すため、独自の改革が行われ、薩摩藩では黒砂糖を、肥前藩では陶磁器を専売制としたことから、正答はイとなる。
- 問5 (1) 平成27年6月の公職選挙法等の改正によって、選挙権年齢が満20歳以上から、満18歳以上に改められた。
- (2) 選挙の課題の一つである「一票の格差」とは、選挙区によって議員一人あたりの有権者数が異なり、一票の価値に差が生じることである。福岡県と佐賀県の有権者数と議員定数を示した表を読み取ると、第23回の選挙における議員一人あたりの有権者数は、福岡県が約100万人で、佐賀県が約35万人であり、第24回の選挙における議員一人あたりの有権者数は、福岡県が約70万人で、佐賀県が約35万人である。そのため、表を読み取ることによっても「一票の格差」について説明することはできる。正答に至らなかったものには、選挙区によって有権者数が異なることという事は記述されているものの、「議員一人あたりの有権者数が異なること」についての記述ができていないものがみられた。